

平成 19 年度 農業部会 見学会

テーマ：とちぎ農業の先端開発研究、有機資源リサイクル施設の動向

期日：平成 19 年 8 月 3 日（金）

見学先：栃木県下

（1）栃木県農業試験場栃木分場

所在地 栃木市大塚町 2 9 2 0

「いちご」に関する研究開発の現況について見学した。



（2）茂木町有機物リサイクルセンター「美土里館」

所在地 茂木町大字九石 6 4 1-1

環境保全型農業の推進を目的に、地域有機資源を原料にしている堆肥化製造施設の運営状況を見学した。



(3) 栃木県農業試験場栃木分場

所在地 栃木市大塚町2920

「いちご」に関する研究開発の現況についての概要説明を聞くとともに、研究施設を案内していただいた。

取り組み中の試験研究課題

1) 新品種育成試験

最近の育成品種は「とちおとめ」（平成8年登録）、「とちひめ」（平成13年登録）。

さらに良い品種—生産者にも消費者にも評価してもらえる、耐病性で良質多収等が目標—の育成を目指して取り組んでいる。

2) 10月上旬どり新作型の開発

苗を8月上旬から約1か月夜冷処理して10月上旬から出荷できるようにできれば（当初に得られる果実が大きく、生食用向き）、12月のクリスマス用のケーキに使うに適した大きさの果実が得られるようになる。高値での販売が期待できるので、それを狙っている。



夜冷施設（後方）

3) 閉鎖型養液栽培システムの開発と技術開発

培地にスギの廃材を使用し（安価）、廃液を外部に出さないというシステムで、平成18年に特許を得ている。ただ、設置費は相当高額になる。



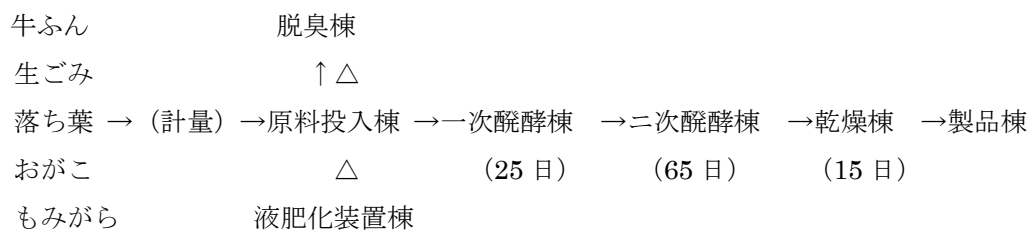
養液栽培システム

(4) 茂木町有機物リサイクルセンター「美土里館」

所在地 茂木町大字九石641-1

人と自然にやさしい農業（環境保全型農業）を目指して、堆肥化施設を核とした地域資源循環システムを樹立している。具体的には、地域資源として生ゴミ、家畜ふん尿、籾殻、落ち葉、オガコ等を原材料として堆肥化し、地域農業の振興を図っている。

有機物リサイクルセンターの仕組み



落ち葉（袋詰め）



一次醗酵棟



製品棟

